

# 好勝負 気迫の相撲

## 富士見町境小 伝統の「押立場所」

富士見町境小は21日、

が見られた。

伝統の相撲大会「大相撲押立場所」を同校近くの押立山で開いた。自分で考えたしこ名で土俵に立ち、練習を重ねた所作を披露。コロナ禍による制限をなくし4年ぶりに観戦した保護者や来賓からも声援を受け、気迫のこもった取組を繰り広げた。

出場した力士は1〜5年生の代表者と6年生の計40人。

「た」と笑顔を見せた。

しこ名が入った手作りの化粧まわしを着けて東西に分かれて土俵入りした。取組では、12日に荒汐部屋（東京都）の力士と交流した際につけてもらった稽古を生かし、一気の押し出しや豪快な投げ技、1分以上の大相撲などの好勝負

押立山は「国見山」とも呼ばれ、町史跡に指定。江戸時代に藩主が甲信の村々を俯瞰するために訪れ、藩主をもてなす奉納相撲が行われていたという。約20年前、当時の6年生が土俵跡を発見したのを機に相撲大会が始まった。



押立山にある土俵で気迫のこもった取組を繰り広げる境小の児童

分以上の大相撲などの好勝負

（濱翔貴）